

令和4年岩手県モデル事業所伴走支援

施設概要 住田町社会福祉協議会グループホームかっこう

施種種別	認知症対応型共同生活介護
定員	9名
開設日	2010年
所在地	岩手県住田町

手順01 改善活動の準備をしよう

- ・業務アドバイザーと対話により課題間の整理、仮設検討
- ・プロジェクトチーム組成（事業所内での人選）
- ・プロジェクトリーダーから、全体キックオフ・取組宣言・全スタッフへ周知。

手順02 現場の課題を見える化しよう

- ・ケアパレットを使用できるのは職員10名のうち4名。
- ・ケアパレットの使用方法がわからない。新しく覚えることに抵抗がある。
- ・準夜勤者がまとめて入力（転記）しているが、時には2～3日分まとめて入力しなければならず負担が大きい。

夜勤のケアパレットの入力の負担を減らすため、バイタルをその都度もしくは合間を見つけて入力する。

手順03 実行計画を立てよう

活用したテクノロジー
NDソフトウェア
ケアパレット

夜勤のケアパレットの入力の負担を減らすため、バイタルをその都度もしくは合間を見つけて入力する。

1 記録の洗い出し

- 記録の5Sシート作成。
- 各業務の棚卸を行い洗い出した。

2 手順書の作成

- ケアパレットのバイタルにおける手順書を作成する。

3 その他

- 現状把握アンケート、各種評価の実施。
- 現場との対話、プロジェクトチーム内での対話。内省。

手順04 改善活動に取り組もう

～工夫した点～

夜勤のケアパレットの入力の負担を減らすため、**バイタル**をその都度もしくは合間を見つけて入力する。

活用したテクノロジー

NDソフトウェア
ケアパレット

1

記録の洗い出し

- ケアパレットをまず、導入して活用できそうな業務、項目について考えた。

2

手順書の作成

- バイタルの項目について、実際のケアパレットの画面を用いて作成。
- 手順書を事務所内、ホール事務机に1部ずつ配置。

3

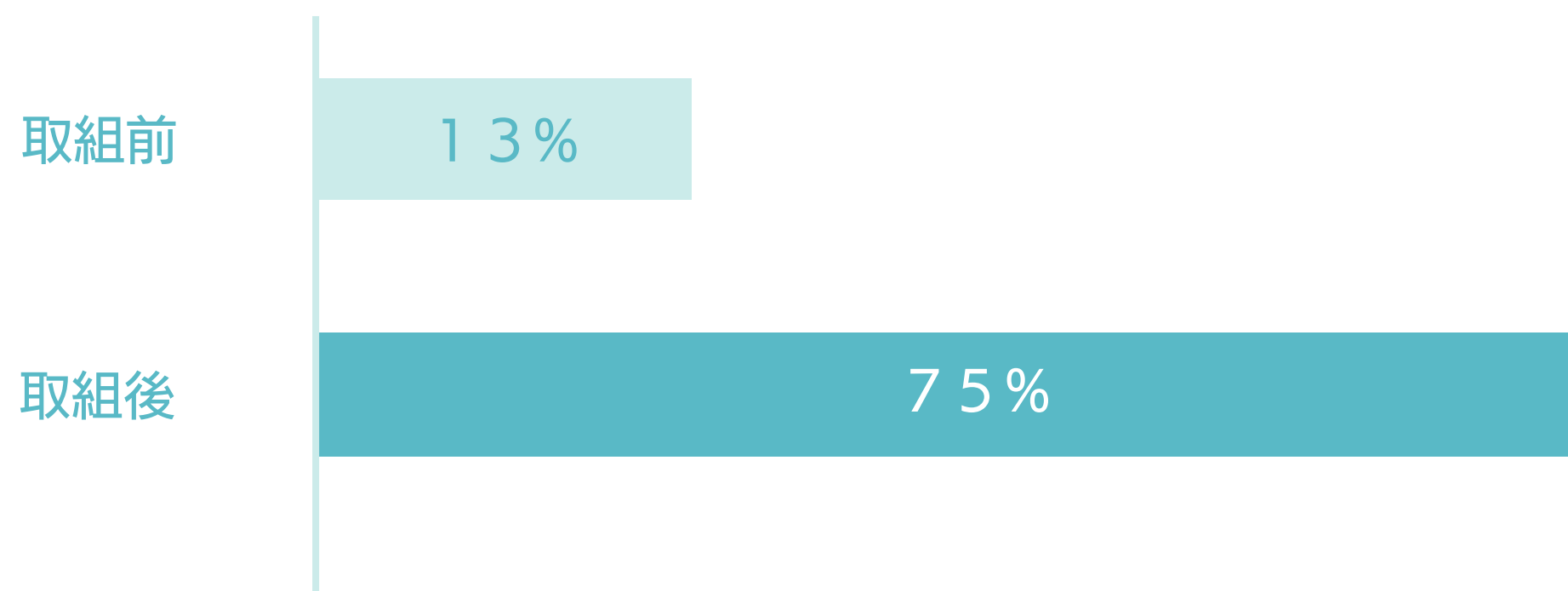
その他

- 気づきなどをスタッフからフィードバックしてもらう。

手順05

改善活動を振り返ろう

以前は不安があったが、少し緩和してきている



62%
アップ

操作方法を手順書をその都度確認しながら行うことができた。

合間を見て他の人も入力するようになり、準夜勤者の負担が少しずつ軽減した。

- 使い方がわからない人が50%改善
- ケアパレットへの抵抗感が減った75%

手順06

実行計画を練り直そう

得た学び、感じたこと

- 今までは、準夜勤者のみが行っていたが、他の人も合間を見て行うようになり負担が軽減した。
- 入力を特定の項目しか行っていなかったが、操作してみるといろいろな項目が対応していることがわかった。



- 今回は「バイタル」という1項目を入力してみたが、今後は項目を増やし必要な情報を入力し活用できるようにしていきたい。
- 操作方法に慣れ、二度手間を減らせるように直接入力を意識して対応していきたい。
- 職員間で思っていることなどを気兼ねなく意見しあえ、働く意欲につなげたい。